

茅ヶ崎セントラルクリニック

症 例 概 要 患者氏名：H・S様 （60代 男性）

病名：SLEによる慢性腎不全、右被殻出血

入院期間：平成31年12月下旬 ～ 平成31年1月中旬

経過：平成31年12月下旬頭痛・構音障害・左上下肢筋力低下のため近医へ救急搬送され右被殻出血で入院。降圧管理を行い経過良好にてリハビリも開始して退院となり当院での透析再開となった。

内 容

平成8年11月SLEを原疾患とする慢性腎不全にてC病院にて透析導入。平成10年生体腎移植を施行して透析離脱したが拒絶反応が出現したため平成11年再度透析開始となった。

現役で仕事をしている患者さんの為、月水金週3回の夜間透析で外来透析を施行。奥様と共通の趣味のダイビング・スキーを仕事・透析を調整しながら楽しんでいた。定年後は自営業となり沖縄にセカンドハウスを購入してダイビングを楽しむ時間が増えてダイビングや沖縄の話しを透析中にスタッフとされていた。

1月中旬の夜、自宅マンションで転倒、頭痛が出現したが、そのまま就寝する。翌朝頭痛が持続しており、左上下肢のしびれも併発していた為、茅ヶ崎セントラルクリニックに電話をして、症状についての報告を行い、病院に受診しておきたいので紹介状が欲しいという依頼を受けた。

電話の対応に当たった看護師がいつもと違う喋り方（ろれつが回っていないこと）に気が付き、妻に救急搬送の必要性を説明し、基幹病院ERへ搬送した。

普段患者さんと家族のように接している看護師が早期に症状に気が付き、救急受診の指示を行った事で、適切な治療が早期に開始でき、症状が落ち着きリハビリもスムーズにすすめられた。入院日数22日間での短期間の回復に主治医も驚いている。現在構音障害・左上下肢の麻痺は残存しているが日常生活に支障ないほどに回復しており、週3回の外来透析に通えるようになった。

最近では趣味のダイビング・スキーを楽しむことができることを励みにリハビリを続けている。